

評価シート 様式

取組名	洞爺湖周辺地域エコミュージアム構想における官民協働型運営に向けた人材育成事業		
実施団体名	NPO法人環境防災総合政策研究機構	対象地域	北海道伊達市、洞爺湖町、壮瞥町、豊浦町
(代表団体名)		推薦団体名	壮瞥町(洞爺湖周辺エコミュージアム推進協議会事務局)

① 実施 状況	提案書に記載された取組内容について、当初の計画通り実施されているか	② 実施 体制	平成20年度に行われた取組の実施体制について
	<input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組を適切に実施したと判断される。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断される。
	<input checked="" type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部が未実施となっている。但し、予定した主要な取組は適切に実施したと判断される。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断されるものの、改善の余地が認められる。
	<input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部又は全部が未実施となっており、特に主要な取組が実施されていない。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、主体的に実施されたと判断できない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)
③ 効果	平成20年度に行われた取組の当初目標の達成状況について	④ 継続 展開 の見 込み	平成20年度に行われた取組の継続展開の見込みについて
	<input type="checkbox"/> 当初設定した目標を達成し、実施した取組が予定していた成果をあげたと認められる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り又は発展的に継続展開が予定され、持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 当初設定した目標の達成には至らないものの、実施した取組が予定していた成果の一部又は全部をあげたと認められる。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画とは一部異なるものの、取組方法の改善等により持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。
	<input type="checkbox"/> 実施した取組が当初の目標の達成に至らず、予定していた成果をあげることができなかったと認められる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り持続的・効果的に取組が進捗するとは見込まれない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)

※①において「申請時に予定した取組とは異なる取組が行われた」場合や、③において評価シート作成時点で成果を把握できない場合など、留意事項がある場合に「備考・特記事項」欄に記載する。

評価シート 様式

取組名	洞爺湖周辺地域エコミュージアム構想における官民協働型運営に向けた人材育成事業		
実施団体名	NPO法人環境防災総合政策研究機構	対象地域	北海道伊達市、洞爺湖町、壮瞥町、豊浦町
(代表団体名)		推薦団体名	壮瞥町(洞爺湖周辺エコミュージアム推進協議会事務局)

⑤ 総合評価	○ 複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果に関する所見 相乗効果・波及効果:住民会議や住民団体交流会を通じて、意識の醸成や広域な連携体制が図られ、加えて連携団体であるエコミュージアム推進協議会の申請で世界ジオパークの国内登録第1号の候補地に決定されたことにより、更なる体制強化が期待できる。
	○ 評価
	<input type="checkbox"/> ①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」の全てにおいて評価が高く、「地方の元気再生事業」の趣旨に鑑みて優れた取組であると評価できる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であると評価できる。ただし、①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」のいずれかについて改善の余地が認められる。
	<input type="checkbox"/> ①～④のうち1以上の項目で評価が低く、「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」においても特筆すべき点が認められず、「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であるとは評価できない。
	(評価の考え方及び次年度以降に向けた所見)
	住民会議や住民団体交流会等を通じて、意識の醸成や広域な連携体制の構築が進みつつある点が評価できる。今後は以下に留意しつつ地方の元気再生事業として支援を行うことにより本格展開に向けた継続的な展開が期待できる。
	次年度以降については、観光振興へ向けて、世界ジオパーク国内登録第1号の候補地となったことを契機とし、住民団体やエコミュージアムガイドを中心とした官民協働の受入体制の構築が最大の課題であると考えられるため、その視点に立って各取組を行い、22年度以降の自立的展開を図るべきである。
	具体的には、「観光プロモーション活動」については、運営委員会の設立(住民会議の組織化)や、エコミュージアムガイド制度の本格的施行等と連携しつつ、モデルツアーによる観光ニーズの把握を通じた体制構築に特化すべきである。
	また、「住民会議」の組織化にあたっては、その目的と役割を明確にするとともに、参加する住民と共通の認識を持って取組んでいくことが重要である。